



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

HARMACY NEWSBREAK

薬局同士の連携、キーワードは「非競争領域」 薬経連・山村会長、「医薬品の有害事象から国民を守る」

中小薬局でつくる保険薬局経営者連合会（薬経連）の山村真一会長は22日、東京都内で開いたフォーラムで「10年後の薬局の姿～新しいビジネススタイルの創生」をテーマに講演し、薬局の存在価値を国民に示すため、薬局同士が競い合う必要のない「非競争領域」で連携することが必要との考えを示した。具体的には、医薬品の有害事象から国民を守るという共通目標の下、各薬局が連携して電子薬歴データを集積することでセーフティネットの機能を果たすことを提案した。

山村会長は講演で、今月5日に「薬局・薬剤師の在り方」をテーマに議論した厚生科学審議会・医薬品医療機器制度部会で、医薬分業に対する厳しい意見が相次いだことに言及し、「今の調剤報酬である程度潤っていると、それ以上変えようだとか、何か（新しいことを）進めていこうというモチベーションが生まれてこない」と問題提起した。

具体的には、薬局の新しい顧客創出のために薬経連が進めている、保険者の依頼を受け、薬局が被保険者の生活習慣指導などを行う保険者連携プログラムへの参加を促しても「処方箋調剤が忙しくて取り組めないという反応が返ってくる」という一部薬局とのやりとりを紹介。目先の事象に追われ、将来のビジョンがないことを残念がった。

その上で、今後の薬局の方向性の一つとして、国が進めようとしている公的保険外のヘルスケア領域でのプレーヤーに進化することを提案。「そのプレーヤーというのは必ずしも薬局でなくても構わないが、私たちが多少アドバンテージがあるとすると、私たちがメインプレーヤーになれる可能性がある」と強調。一方で、「問題なのは、今何が起きているかという最新の情報が私たちの手元に届いていなかったり、情報収集したりしていないから、乗り遅れてしまっていることだ」との認識を示した。